

RYOBI[®]

エンジン ジェットポンプ EJP-55

取扱説明書

このたびは、エンジンジェットポンプをお求めいただきまして、まことにありがとうございます。

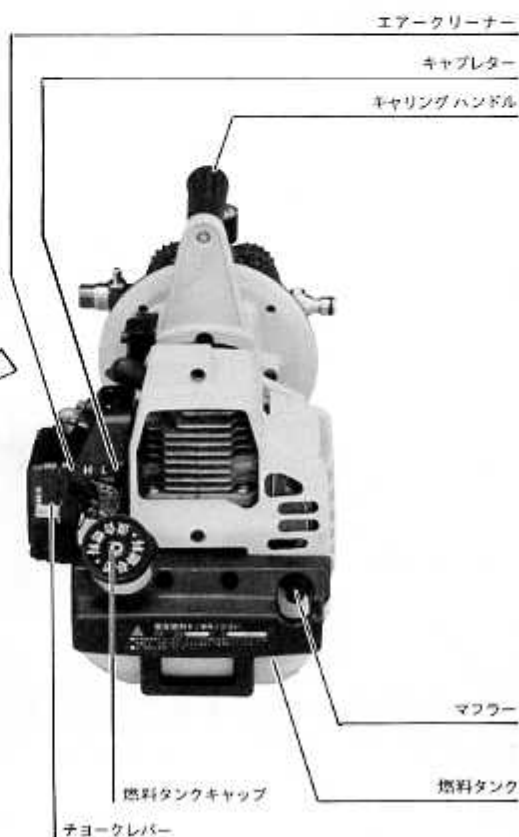
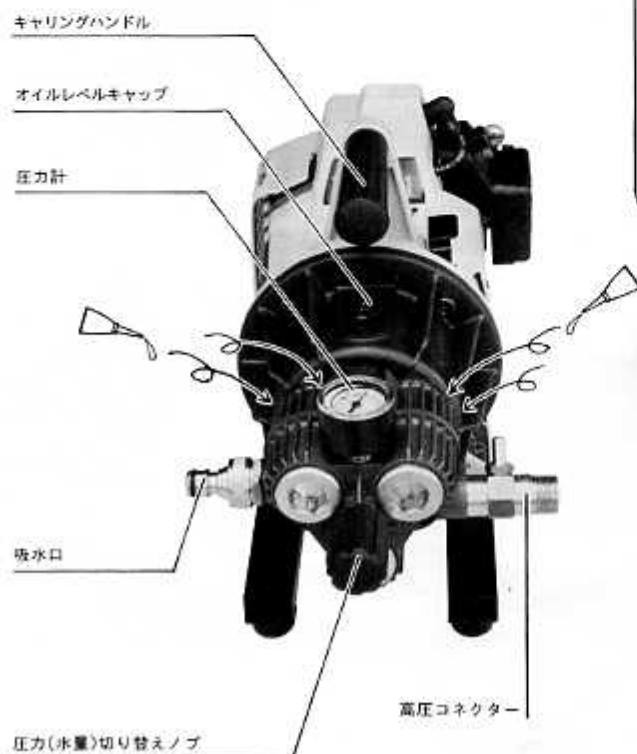
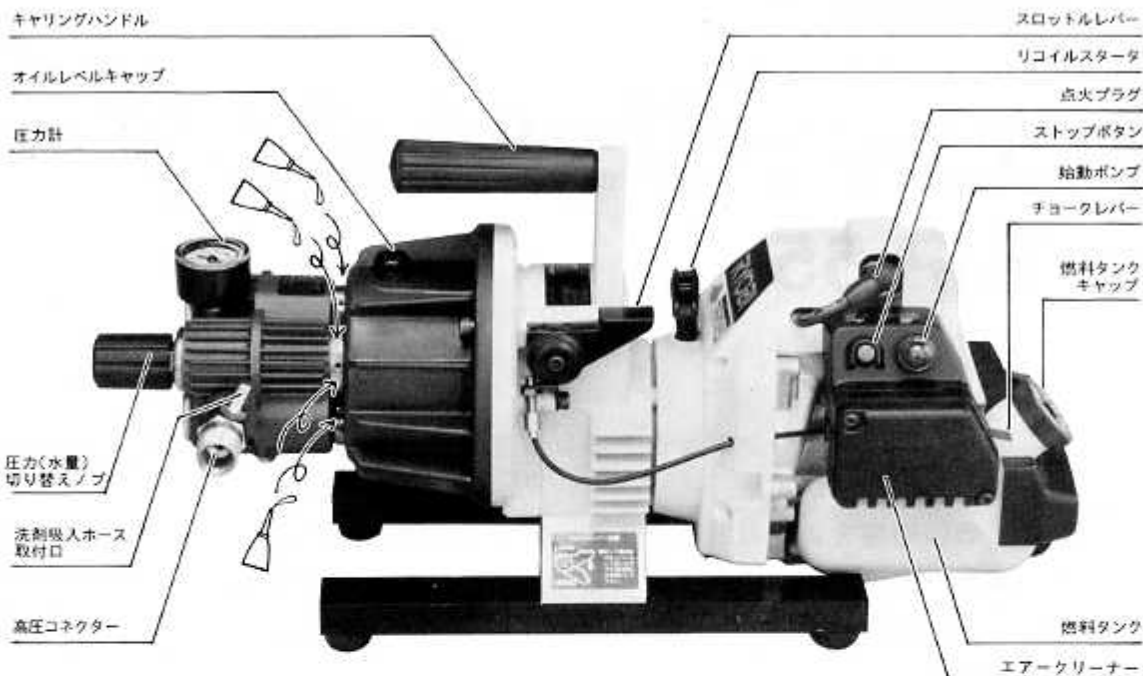
●この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

また、そのあとの取扱説明書は、お手元に大切に保管して下さい。



各部の名称

給油穴へオイルを給油して下さい。長期間ポンプを使用しなかった場合は、必ずポンプ
運転前に給油を行なって下さい。(使用オイルは自動車用エンジンオイル10W)



●通常付属品（梱包内容を必ず確認して下さい）



・洗浄ブラシ

洗剤を使った洗車をはじめ、各種器具などの
ブラシ洗浄に使います。



・バリエブルノズル

ストレート噴射から広角噴射（霧状噴射）ま
で幅広い用途に対応します。

ストレート噴射……泥などの洗い流しに。
広角噴射……洗剤などの洗い流しをは
じめ、薬剤散布などに。



・高圧ホース
（8m・ガン・接続端子付）



・吸入ホース
（3m×内径φ15mm）



・洗剤吸入ホース

洗剤、液や薬剤、液を水と一緒に混合し噴射
するための吸入用ホースです。
バケツ等から扱い上げ使用に便利です。



・ワンタッチジョイント



・燃料混合容器

・収納袋



・プラグレンチ

●特別付属品（別販売）



・洗剤噴射ノズル

バリエブルノズルと洗剤タンクが一体となっ
たノズルです。上部のダイヤルを操作するこ
とにより、洗剤の吐出量が調整できます。
洗剤の他、薬剤（液）の使用にも使えます。



・回転ブラシ

水圧により、中央のブラシが回転し、窓や広
い面積のブラシ洗浄を高速で行います。



・ターボノズル

噴射する水が勢よく回転、洗浄効果を上げ
ると共に広い面積を洗浄するときに使います。



・延長ランス

各種先端のブラシ、ノズル類の取り付け長さ
を延長して使用できます。

ご使用前に

●ご使用に当たりますの注意事項

ご使用前には必ず取扱説明書を十分読み、指定された以外の用途にはお使いにならないで下さい。

- 製品は大切に取扱って下さい。誤って落としたり、ぶついたりした場合は異常の有無を確認した後、ご使用下さい。
- 能力を超えた作業は危険です。噴射圧力を時々確認して、使用して下さい。
- 製品は使用中温度が高くなります。使用中や、使用直後に手で触れたり急激に水をかけたりしないで下さい。
- 安全な作業をする為に製品は水のかからない安定した場所に設置して下さい。
- 服装はすそじまりをよくし、水がかかってもよいようにして下さい。
- 機械はいつもきれいに、特に燃料タンクのまわりは汚れがつかないように清潔に拭いておいて下さい。
- エンジンを始動したり、本機を使用される場合は周囲に十分注意して操作して下さい。
- 燃料補給や手入れをしているときには絶対にタバコを吸ったり火気を近づけたりしないで下さい。
- 燃料補給は必ずエンジンを停止し、冷えてから行なって下さい。
- 燃料は必ずガソリンと2サイクル専用オイルを規定の混合比率で混合し、使用して下さい。
- ネジ類のゆるみ、部品の破損、摩耗等はトラブルの原因になります。点検、整備してからご使用下さい。
- 長期間格納するときは燃料を抜いて、再度エンジンを始動させて自然停止の後、安全できれいな場所で保管して下さい。
- 補用部品はすべて指定の純正部品をご使用下さい。

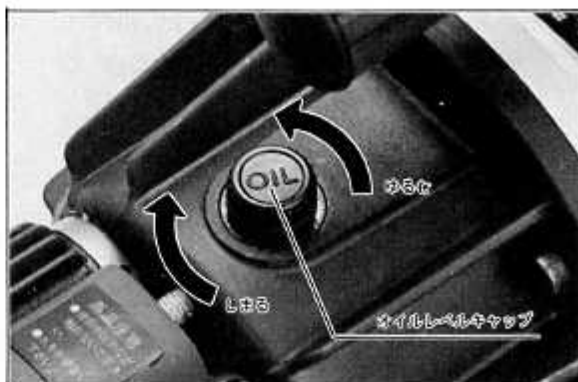
仕様

形 式	E J P - 55
水 量 (流量)	6 ℓ / 分
水 圧	最大55kgf/cm ² (約55bar) (通常使用圧45kgf/cm ² 以下)
ポンプ形式	3連プランジャー
許容水温	60℃以下
オイル容量	400cc (自動車用エンジンオイル10W)
エンジン	空冷2サイクル単シリンダ
排気量	28.5cc
最高回転数	8,000rpm
キャブレタ	ダイヤフラム式
マグネト	電子点火方式、フライホイールマグネト
スパークプラグ	D J 8 J
始動・動力伝達	リコイルスタータ、自動遠心クラッチ
燃 料	混合ガソリン 無鉛ガソリン20-25：2サイクル専用オイル 1
タンク容量	600cc(連続運転約50分)
機体寸法	L540×W210×H290mm
本体重量	10.5kg

使用準備

●オイルレベルキャップの取付け。

お買い上げになった状態では輸送中のオイルもれを防ぐ為、六角ボルトでキャップがされています。この六角ボルトを手持ちのスパナではずした後、付属のオイルレベルキャップを取付けます。



●オイル量の点検と交換。

- ・使用前に規定量オイルがあるかどうかを確認して下さい。
- ・万一不足している場合は補充して下さい。

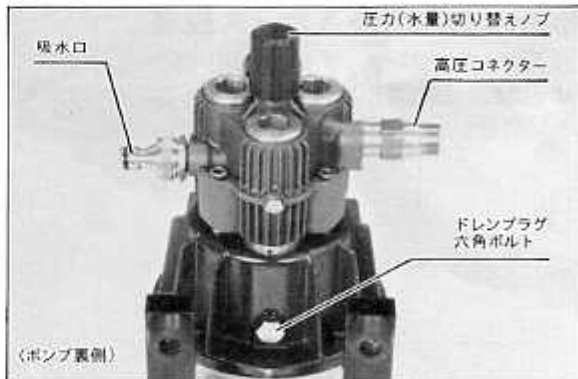
ご注意

- ・確認後は運転中にオイルレベルキャップがゆるまないよう、しっかりと締付けて下さい。
- ※オイルレベルキャップに触れる時パッキンをなくさないよう注意して下さい。



- ・1年に一度又は運転時間が100時間を越えたらオイルを交換して下さい。
- ・オイルの交換は下部のドレンプラグの六角ボルトを手持ちのスパナでゆるめ、はずし古いオイルを抜き取ります。
- ・この時、オイルレベルキャップをはずすと早くオイルが抜けます。

※六角ボルトをはずしたとき、パッキンをなくさないよう注意して下さい。

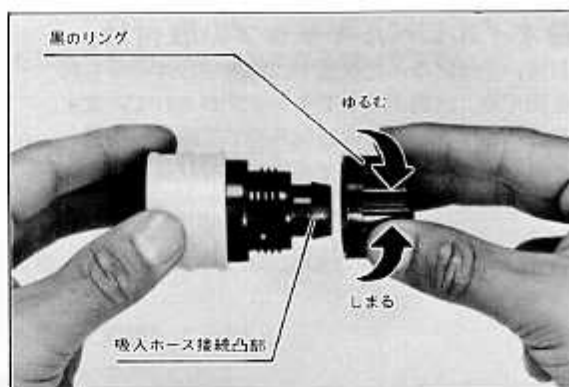


- ・古いオイルが抜けたことを確認したら、ドレンプラグの六角ボルトを締付けます。
- ・新しいオイル(10W・400cc)をオイルレベルキャップの取付口より注入し、レベルゲージで規定量かどうかを確認して下さい。
- ・運転中にドレンプラグ(六角ボルト)がゆるまないよう、しっかりと締付けて下さい。

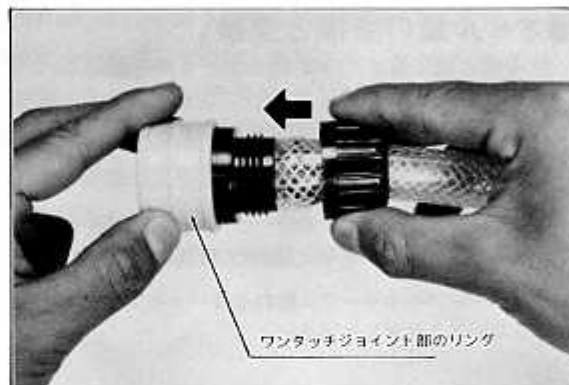


●吸入ホースとワンタッチジョイントの組付け。

ワンタッチジョイントの黒のリングをゆるめ、はずした後、吸入ホースに黒のリングを通し、ワンタッチジョイントの接続凸部に吸入ホースを差込みます。



つぎに黒のリングを合わせ締付けると、吸入ホースとワンタッチジョイントは固定されます。

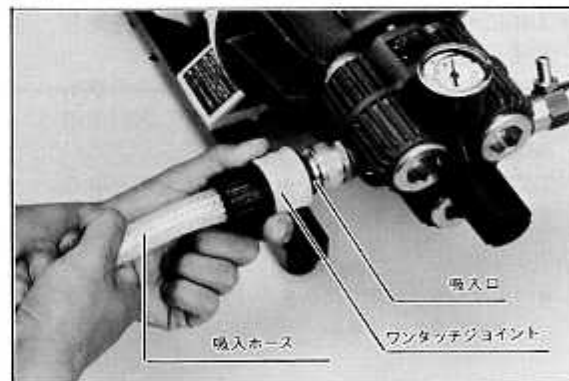


●ここからは必ずエンジンが停止している状態で行ってください。

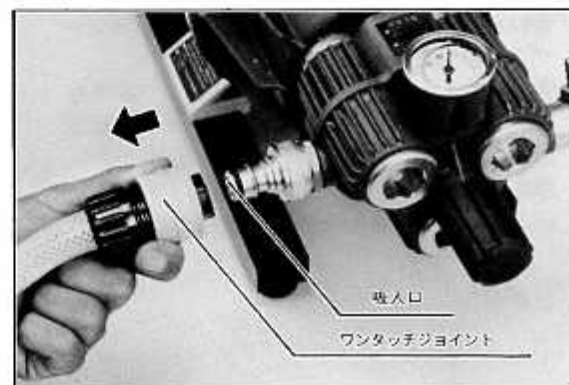
(エンジンについては「エンジンの扱いの項」(10頁以降)をご覧ください。)

●吸水口への吸入ホース脱着。

吸入ホースのワンタッチジョイント部のリングをホース側へ移動させた状態で吸入口へ押し付け、リングをもとの状態にもどすと接続できます。



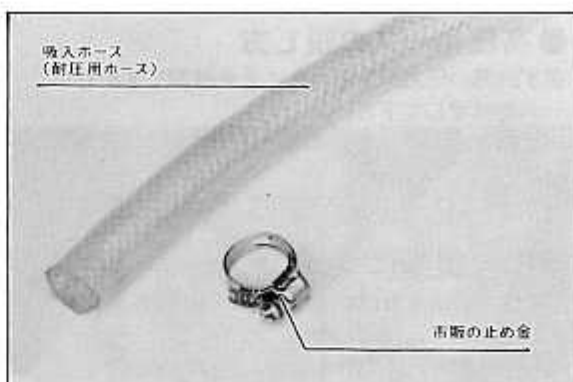
はずすときは、ワンタッチジョイント部のリングをホース側へ移動させると簡単にホースは、はずれます。



●吸入ホースと水道の接続

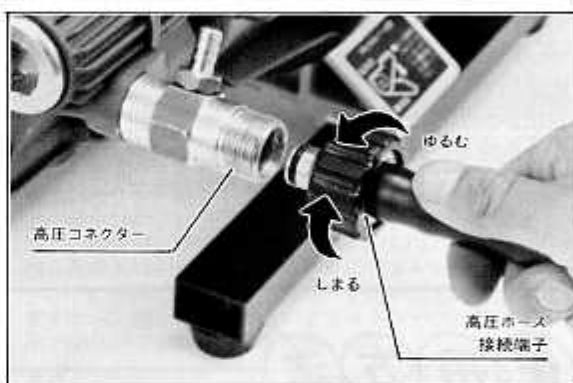
吸入ホースのなにも付いていない側を水道の蛇口に接続します。

※吸入ホースは常に加圧、負圧にさらされています。
 長期間使用される場合は市販のメッシュ入り耐圧用ホース(内径φ15mm)をおすすめします。
 また、水道の蛇口へ接続される場合は市販の止め金等を使い抜け落ちないようにして下さい。



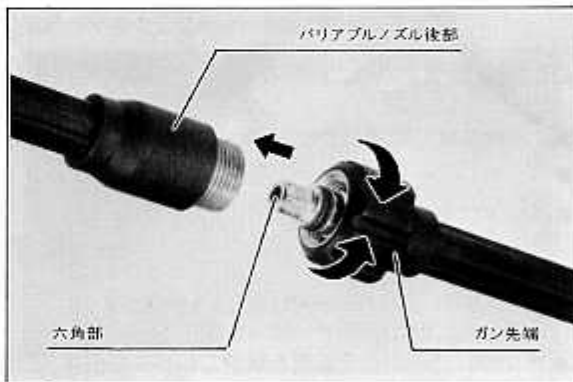
●高圧ホースの取付け

高圧ホースの接続端子を高圧コネクタに接続します。
 接続端子中央の凸部を高圧コネクタの中央部に合わせ挿入したのち接続端子のリング部を廻し、締付け固定します。

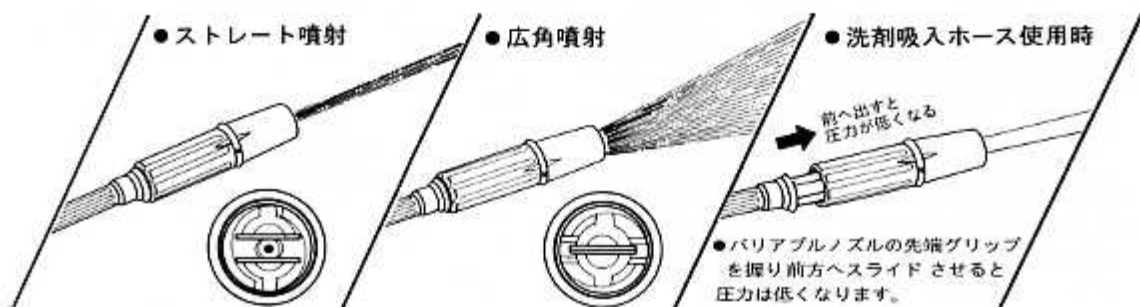


●ガンとバリアブルノズルの組付け。

ガン先端の六角部分を、バリアブルノズル後方の中央凹部六角に合わせ挿入し、ガン先端のリングを回し締付け固定します。
 はずす時は逆の要領ではずします。



・バリアブルノズルは使用する状況に合わせてストレート噴射⇔広角噴射へと噴射する角度、圧力を変化させることができます。



●高圧ホースの脱し方

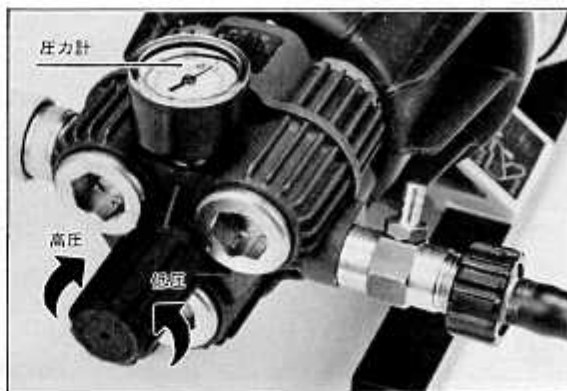
必ず内部の圧力が下がったことを確認してからホースをはずして下さい。
(使用方法の項下記を参照して下さい)

●圧力調整について

ポンプの常用圧力は45kgf/cm²(約45bar)にて設計されています。(最大55kgf/cm²)
使用中は時々、圧力計を確認し45kgf/cm以下になるよう調整して下さい。

ご注意

規定以上の圧力で使用されますとポンプに無理な負担がかかるばかりか、各部にも無理な圧力がかかり危険だけでなく、いちじるしく機械の寿命を縮めたり、故障の原因にもなりかねません。



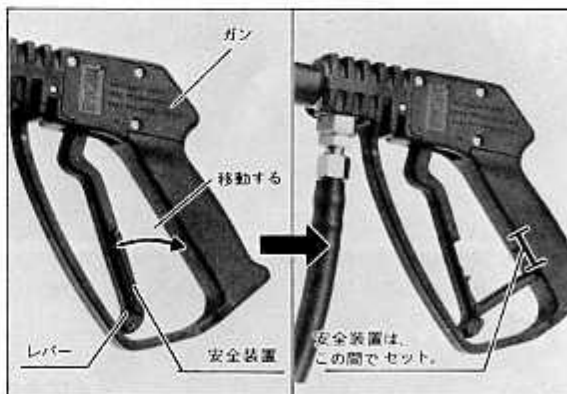
使用方法

ここでは、前項までにご説明の水道の蛇口よりの吸水からバリエブルノズルでの噴射を例に記載します。

- 各部の接続を確認します。
- ガンのレバーにある安全装置をセットします。
- エンジンをスタートさせます。
※アイドリング状態とします。
- 水道の水を通します。
蛇口を開き、十分な水が流れることを確認します。
水道の水圧で水がポンプへ流入します。
- ガンのレバーの安全装置を解除しレバーを引きます。
- エンジンのスロットルレバーを操作し、回転を上げます。
- バリエブルノズル先端より水が噴射されます。

ご注意

- 安全のため、噴射は人や動物に対し行わないで下さい。予想以上の水圧で噴射されますのでこわれやすいものへの噴射もさけて下さい。
参考：通常の水道の圧力は約2kgf/cm²です。
- 使用中及び使用直後はポンプ・エンジン部共に高温になっています。各部が充分冷えたことを確認してから触れるようにして下さい。



噴射注意!!
高温注意!!

●先端部の附属品の付け換え

- ・エンジンのスロットルレバーを操作し、回転を下げ（アイドリングに戻す）下さい。
- ・圧力計で水圧が下がったことを確認してからガンのレバーにある安全装置をセットし先端部の附属品を交換します。（例えば、バリアブルノズルから洗浄ブラシへ。）

【ご注意】

- ・水を噴射しないときは、スロットルレバーを操作し、エンジンの回転数を下げ、アイドリング状態にして下さい。

●噴射を終了するとき

- ・エンジンのスロットルレバーを操作し、回転を下げます。
- ・水道の蛇口を閉め、吸水ホースをはずします。
- ・ガンのレバーを引き、再度スロットルレバーを操作し、エンジン回転を上げ、中に残った水を噴射し、抜き取ります。
- ・水が噴射しなくなったら直ちにスロットルレバーを操作し、エンジンの回転を下げます。

【ご注意】

ポンプ内部に水が入っていない状態で、長時間空運転（エンジンの高速回転）をしないで下さい。

- ・エンジン回転が下がり（アイドリング状態）安定していることを確認してからエンジンを停止します。
- ・高圧ホースの接続端子のリングを廻し、高圧コネクターよりホースをはずします。
- ・各ホース内部に残っている水を抜いてから収納袋に附属品類を収納します。

※長期間収納される場合は充分水分が無いことを確認の上、陰干しをした後に収納して下さい。

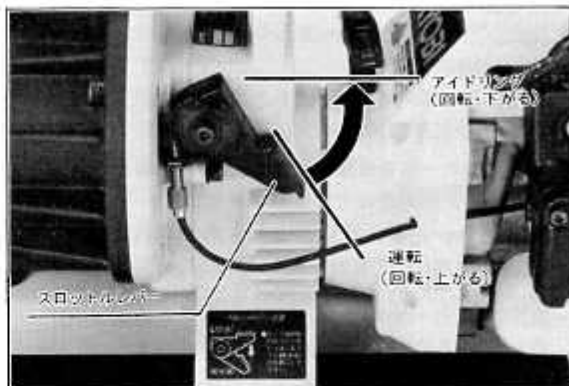
●洗剤吸入ホースと洗浄ブラシの接続、使用。

- ・洗剤吸入ホースのなにも付いていない側を高圧コネクターに付いている接続口へ接続します。

【ご注意】

- ・バリアブルノズルにて洗剤吸入ホースを利用される場合は圧力が低くなるよう広角噴射の状態、バリアブルノズルの先端部を前方へスライドさせて圧力を低くしてご利用下さい。

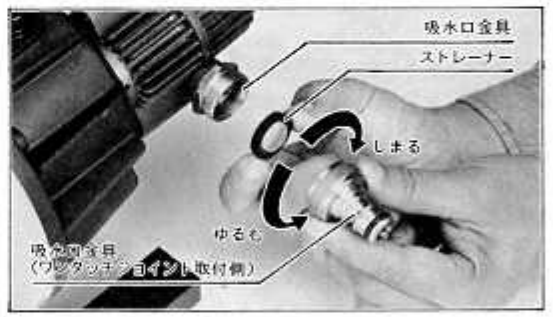
（6ページの図を参照して下さい）



●ストレーナーの清掃

吸水口のリング部を手または工具にて反時計方向へ回すと、吸水口のリング側（吸入ホースのワンタッチジョイントの取付口）がはずれます。残った吸水口の金具（本体側）中央にストレーナー（ゴムリングの中央に金網のフィルターが付いたもの）が見えますから、網をキズ付けないようストレーナーをはずし、水で網目のつまりを取るよう洗います。

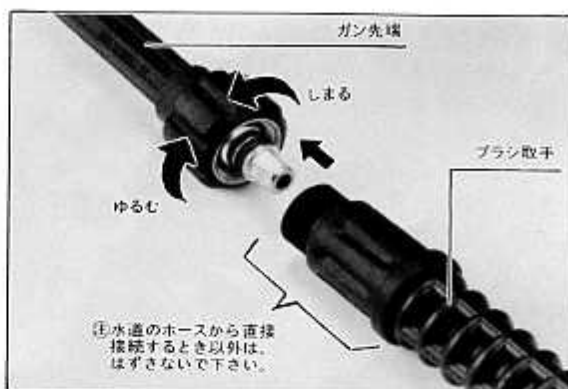
※ストレーナーを取るにはゴムリング外側をツメなどで軽く起すと簡単にはずれます。洗浄がすみましたら逆の要領で組付けます。



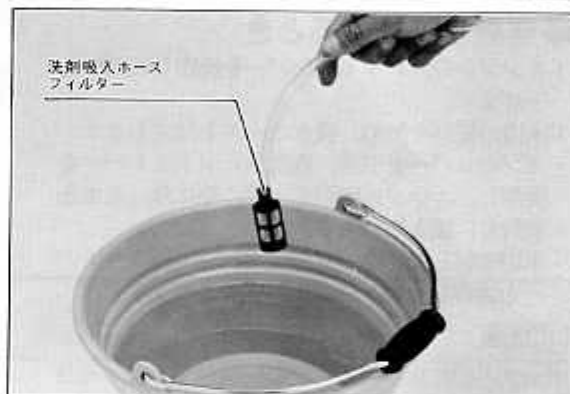
- ・高圧ホースの先のガンに洗浄ブラシを取り付けます。
ガン先端の六角部を洗浄ブラシの取手部後へ挿入します。
次にブラシのネジ部へガン先端のリングを廻し、締付け固定します。
洗浄ブラシ取手部の後ろにあるネジ部分は、はずさないで下さい。

※水道のホースを直接、接続し使用する場合のみ、このネジ部分はずし接続使用します。

- ・洗浄ブラシ先端より水が噴射・放水される状態にします。(まだ噴射しないで下さい)



- ・洗剤吸入ホースのフィルター部分をあらかじめ用意してある洗剤容器の液の中へ沈めます。
- ・この状態で噴射を開始しますと洗剤吸入ホースより洗剤液が吸入され、水と混ざり噴射、放水されます。
- ・洗剤噴射後は、洗剤吸入ホースをはずした後、内部に残った洗剤が洗い流されるよう充分水を吸入噴射して下さい。
- ・エンジンの回転を下げ、圧力を下げたのち、洗浄ブラシ等、先端の付属品をはずします。



■水道の無いところでの使用

本機は動力源に小型高性能のエンジンを採用しています。

川の水やたまり水などを使用し、電源の無いところでの使用を最大の特長としています。また、多量の薬剤散布にも適しています。以下「たまり水」と表示します。

●呼び水について

水道の水を使用される時は水道の水圧でポンプ迄水が導入されますが、たまり水を使用される場合は、ポンプ内部まで吸水ホースを使い、呼び水を行う必要があります。

- ・吸水ホースの両端を持ち、たまり水の中へ沈め、ホース内部に水を満たします。
- ・水が流れ出ないように注意してワンタッチジョイント側を吸入口へ接続します。
- ・ホースの反対側にフィルター(特別付属品)を取り付け、たまり水の中へ水没させます。



○ご注意

たまり水には不純物が大量に含まれています。本機の吸入口内部にストレーナーが設けてありますが、ホース先端には必ず市販のフィルターを付けるようにして下さい。又、底に付けますと泥を吸い込む恐れがあり、底には密着させないで下さい。

■特別付属品の利用について

本機の用途を広げていただけますよう、別販売の特別付属品が用意してあります。必要に応じてお買い求め、ご利用下さい。

保管と点検について

●簡単なトラブル解消法

トラブル内容	原因	対処
1. 動かない	1. エンジンがかからない	エンジン、燃料を点検
2. 水圧が上昇しない	1. ポンプが空気を吸込む	吸入ホースを点検 水道の水の流入量不足
	2. 放水フィルターが詰まった	フィルターを点検、清掃
	3. ポンプ内に空気が残留	一度エンジンをアイドリングに直し、パリアブルノズルを洗剤吸入ホース使用状態にセットしてガンのレバーを引いたまま再びエンジン回転を上げる。(右頁の図を参照して下さい)
	4. ポンプの故障、異常圧力調整装置の故障	お買い求めの販売店又は弊社営業所へ
3. 水の噴射が一途にならない	1. パリアブルノズルのつまり	ノズルの清掃
	2. 水の流入量不足	水道の水の流入量不足 吸水ホース、フィルターの点検、清掃
	3. 圧力調整装置の故障	お買い求めの販売店又は弊社営業所へ
4. 洗剤を吸込まない	1. フィルターのつまり	フィルターの清掃
	2. ホース又はホース接続口のつまり	ホース又はホース接続口の清掃

その他の異常、故障など、修理はご自分でなさらないで、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社営業所へお申し付け下さい。

○ご注意

- ・点検の際は必ずエンジンが停止の状態で行って下さい。
- ・吸入ホース、高圧ホースをはずした状態で行って下さい。
- ・オイルの交換
1年に一度、又は運転時間が100時間を越えたらオイルを交換して下さい。
新しいオイルは、約400cc・自動車用・10Wのエンジンオイルを入れて下さい。
- ・ノズルの清掃
噴射口先端より通水し、ノズル穴の汚れを除去して下さい。

エンジンの扱い

●燃料の調合

- ・ガソリンと2サイクル専用オイルを混ぜた混合燃料です。
ガソリン20~25に対し2サイクル専用オイル1
- ・附属の混合容器にて必要に応じ燃料を作して下さい。→
①の線までガソリンを入れた後②の線にくるまで2サイクルエンジンオイルを入れて下さい。
- ・指定された2サイクル専用オイル、混合比以外の燃料はエンジン不調の原因となりますので使用してはいけません。
- ・4サイクル用のオイルを誤って使用されますとエンジン焼けの原因となります。
必ず指定された2サイクル専用オイルを比率に合わせ正しく混合し使用して下さい。

○ご注意

- ・購入後2~3ヶ月以上経過した古い燃料及び夏季等、高温下ではガソリンの蒸発から混合比が変わったりしてエンジン不調の原因となります。新しい燃料を使用するよう心掛けると共に1日に使用する量に見合った量の混合燃料を用意するようにして下さい。



ガソリンとオイルの混合割合表

混合比	ガソリン(ℓ)	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
20:1	オイル(cc)	50	100	150	200	250
25:1	オイル(cc)	40	80	120	160	200

- ・1日の使用が終了したら燃料タンクのキャップを開け中の燃料を空にして下さい。次にエンジンを始動し、低速で運転して下さい。内部に残っている燃料が無くなると自然にエンジンは停止します。
長時間使用しないで保存される場合は必ず上記操作を行って下さい。

●運転

●始動

エンジンが手でさわられる位冷えている時。

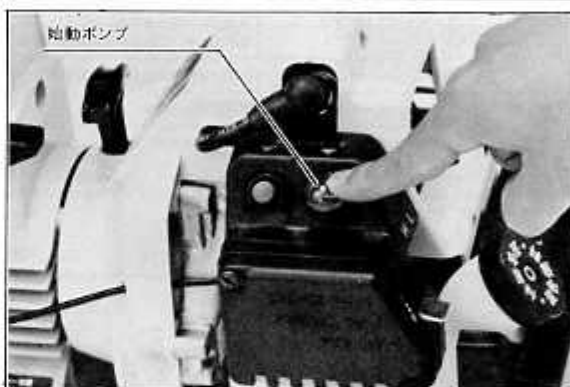
- ・燃料を燃料タンクに入れて下さい。
- ・スロットルレバーを1/3程度（高速側）ひらいて下さい。

◎エンジンが暖まっている時（停止後15分以内）は、チョークレバーや始動ポンプの操作は不要です。

※チョークレバーを全閉の位置(閉)にして下さい。➡



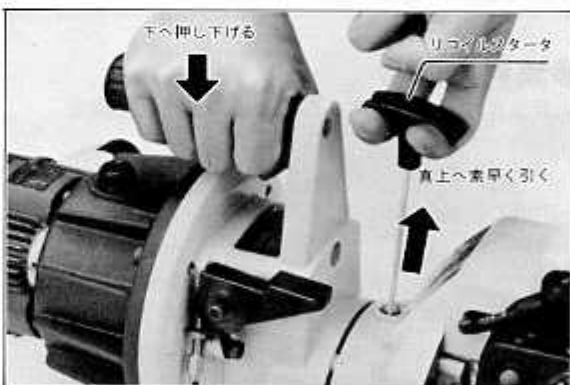
- ・始動ポンプを数回押して燃料を送ります。



- ・リコイルスタータを最初の爆発音ができるまで引いて下さい。ブルンという爆発音がし、エンジンがとまります。（素早く引く）

○ご注意

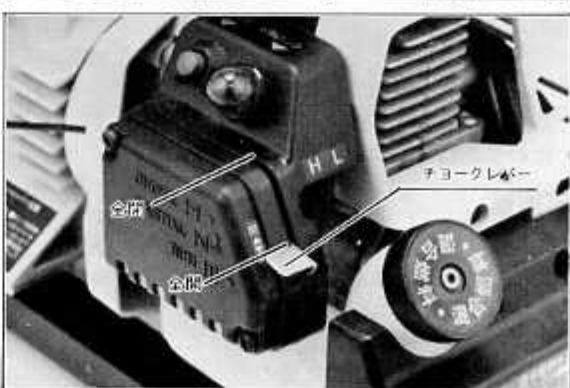
- ・リコイルスタータのロープの長さを確認した後、全長の7～8割位で始動するよう心掛けて下さい。全部を引いてかけますと引きちぎる恐れがあります。



- ・チョークレバーを全開の位置に下げリコイルスタータを引いてエンジンを始動して下さい。
- ・エンジンが始動しましたら直ちにアイドル状態（低速位置）にスロットルレバーを戻して下さい。

○ご注意

- ・始動しない場合は上記※印の項に戻り操作を繰返して下さい。
- ・始動後30秒くらいそのままアイドルの状態暖機運転して下さい。



ご注意

- ・爆発音を聞き逃がしチョークレバーを全開でリコイルスタータを何回も引いた時はチョークを全開にし、スロットルレバーをいっぱいに向けリコイルスタータを引いて下さい。
- ・その場合、爆発音を聞き逃がしてからリコイルスタータを引いた回数あるいはその回数の2倍近く引かないと始動しません。
- ・上記のように燃料が吸い込み過ぎの状態になった時は回復が大変ですから御注意下さい。
- ・再スタートができた時は直ちにスロットルレバーをアイドリング状態にして下さい。

ご注意

- ・エンジン始動のときは機械をしっかり押え、周囲の人などにも十分注意して下さい。

●運転と停止

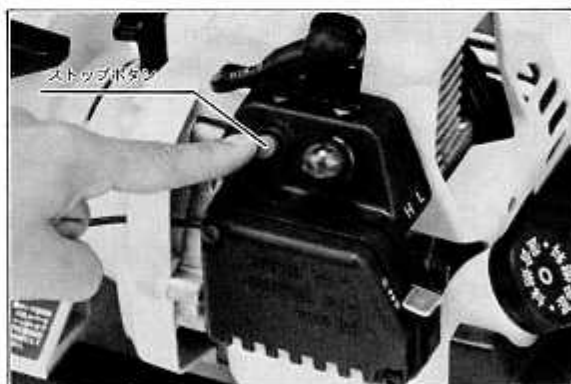
●運転

- 暖機運転の後スロットルレバーを徐々に開けエンジンの回転を上げてゆきます。
- ポンプ使用時は必ずスロットルレバーが運転時の位置(一番下へ降した状態)として下さい。



●停止

- スロットルレバーを戻し低速で冷却運転をしばらくつづけてから、ストップボタン(停止スイッチ)をエンジンが完全にとまるまで押して下さい。



ご注意

- ・エンジンの最高回転はおよそ8000回転/分となりますが、みだりに回転を上げ下げしますと故障の原因になります。いたずらに空吹かしをしないで下さい。

●長期保管

- 機械全体を清掃します。
- 部品は指定の純正部品をご使用下さい。
- 長期間保管するときは燃料を抜いて再度エンジンを始動させて停止後安全できれいな場所に保管します。

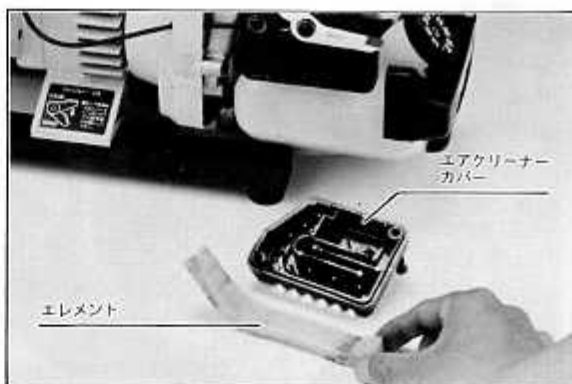


点検と整備

●エアークリーナー

- ・エアークリーナーナスクリューをはずし、エアークリーナーカバーを取りはずします。
- ・エレメントの汚れを点検します。軽くゴミを払うか、汚れのひどいときはガソリンで洗い、乾いてから使用します。

※エアークリーナーナスクリューをなくさないよう、注意して下さい。



●気化器(キャブレタ)

- ・出荷時には燃料が最適に供給されるように調整してありますから、不必要に燃料調整針弁を動かさないで下さい。
- ・燃料調整針弁を徐々に回して調整します。
(右に回すと閉じる方向です)
調整の標準は、調整針弁を全閉にしたところから戻し
低速針弁(スローニードル) $1\frac{1}{8} \pm \frac{1}{4}$ 回転
としたところになっています。

ご注意

- ・高速針弁(ハイスピードニードル)は絶対にお客様が手を触れないようにして下さい。
誤って回されると異常回転となり、エンジン温度が上昇、トラブルが発生する原因となります。
- ・針弁を無理に回さないで下さい。

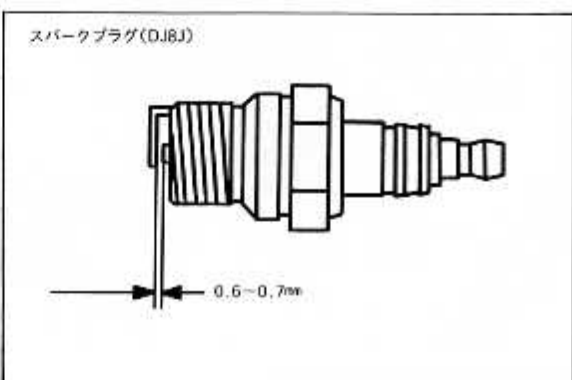


●アイドル調整ネジ

- ・アイドル調整ネジを左右に回し、低速回転を調整します。

●スパークプラグ

- ・スパークプラグの適正な電極間隔は0.6~0.7mmです。常に適正な間隔を保ち、カーボンや油などによる汚れに注意して清掃の上ご使用下さい。



エンジントラブル時のチェックリスト

始動する

スロットルを開くと
エンストする。

エンジンが暖まって
いない。

1分間程アイドル
(無負荷)運転して下さい。

OK NG

化器針弁を左へ1/4
-1/8回します。
左へ回すと燃料が濃くなり
ます。

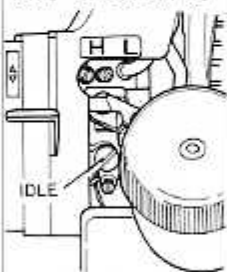


アイドルが低くなるので
アイドルネジを右へ回し
て下さい。
※高速針弁には絶対
にふれないで下さい。

アイドル(無負荷運
転)でエンストする。

燃料と空気の量が少
ない。

アイドルネジを右へ回し
燃料と空気の量を多くし
ます。(回転が上がる)



※高速針弁には絶対
にふれないで下さい。

数分間運転後停止し
全く始動しない。
リコイルを引いても
軽いと感ぜられる。

燃料(ガソリンとオ
イル)の混合比が不
当であったため、
ピストンシリンダー
が焼き付いた。

お買い求めの販売店
へ点検依頼して下さい。

作業中エンジンが突
然停止した。

燃料フィルター及び
化器の目詰まり。

お買い求めの販売店
へ点検依頼して下さい。

ガス欠でエンジンが停止し
燃料補給したが始動しない

急停止でエンジンが加熱
ざみとなり化器内の燃
料が熱を持ち、気泡が発
生する。

作業を中止してエンジ
ンをさまして下さい。

始動しない

燃料の吸い込み過ぎ、
初爆を聞きのがしチ
ョークを閉の状態
で何回もリコイルをひ
いたため。

プラグが燃料で湿っ
ている。
燃料で湿ったプラグ
を乾かす。

手順
①チョークレバーを
"開"にします。
②スロットルレバー
を"全開"にしま
す。
③リコイルを素早く
引きます。
10~15回くらい引
きます。

長期保管時に燃料を
完全に抜いていな
かった。

化器内部の部品が
傷み、燃料がエン
ジに回らない。

お買い求めの販売店
へ点検依頼して下さい。

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い
上ご不明の点があった場合にはご遠慮な
く全国各地のリョービ電動工具販売店に
お問い合わせ下さい。

※改良のため製品仕様が変更の事があります。

発売元



RYOBI

リョービ販売 株式 会社

東京本社 〒101 東京都千代田区外神田3-15-1
本 社 〒464 名古屋市千種区香岡通ウ7-49



RYOBI

リョービ 株式 会社

2980070